



親子で夏休みの思い出に 「子ども霞が関見学デー」 開催

特集

8月7日（水）・8日（木）に、各府省庁にて「子ども霞が関見学デー」が開催された。財務省においてもさまざまなプログラムを用意し、猛暑の中、両日合わせて1295名もの参加を得られた。両日共通で実施された財務副大臣とのミニ記者会見や省内見学をはじめ、7日は東京税関羽田税関支署、8日は造幣局東京支局の見学が行われた。当イベントの概要や、両日の模様を紹介する。

取材・文／向山勇 風間立信

「子ども霞が関見学デー」てなに？

親子とともに広く社会を知る体験活動の機会に

1億円の重さ体験など 展示コーナーの充実を図る

「子ども霞が関見学デー」は、各府省庁が連携し、業務説明や省内見学などを行うことにより、親子のふれあいを深め、子どもたちが夏休み中に広く社会を知る体験活動の機会とするとともに、各府省庁の施策に対する理解を深めてもらうことを目的として実施されるイベントである。

本年度は、8月7日（水）・8日（木）の2日間に渡って開催された。財務省では、まず両日共通のプログラムとして、業務紹介（DVD視聴）や副大臣とのミニ記者会見、そして省内見学を実施。また、7日は東京税関羽田税関支署、8日は造幣局東京支局の見学が行われた。

昨年と同様に子どもたちにわかりやすく親近感を持ってもらうために、7日は「税関ってどんなところ？」、8日は「ぞうへいきよく探検隊！」のプログラム名で開催したほか、財務省の業務や施策、通貨の役割などを子どもたちに理解、興味を持っていただくよう、今年も国立印刷局と造幣局東京支局の協力を得て、1億円の重さ体験・貨幣袋の重さ体験や、金塊・銀塊、地方自治法施行60周年記念貨幣や銀行券の紹介パネルの展示を

子どもたちを
出迎えるカス
タム君



銀行券に関する紹介パネル
を真剣に見る親子

行った。また、今年は新たに関税局の協力を得て、知的財産侵害物品の展示、券種識別アプリの実演など、受付ロビーにおける展示コーナーの充実を図った。さらに正門では、税関イメージキャラクター・カスタム君が出迎え、子どもたちは大変喜んでいる様子だった。

7日は541名（うち子ども290名）、8日は754名（うち子ども401名）、計1295名（うち子ども691名）で、前年の計907名（うち子ども544名）の1.4倍もの参加を得られた。



実物の1億円分と同じ重さ体験「もてますか？ 1億円」のコーナー



貨幣袋の重さ体験

ミニ記者会見レポート 山口副大臣&小渕副大臣



ミニ記者会見は、子どもたちが直接、副大臣に質問をして、副大臣がそれに答えるコーナー。7日は山口副大臣、8日は小渕副大臣が出席した。

山口副大臣は冒頭、「財務省は予算や税金、国の財産の管理などいろいろなことをしています。日ごろ、どうかと思うことを遠慮なく聞いてください」と挨拶。また、小渕副大臣は「ここ（ミニ記者会見の会場は）は、毎週月曜日に私が実際

問 一 答 山口副大臣 編

——大臣を決めるのに投票はしますか？

山口 大臣は総理大臣が決めます。総理大臣は、現在一番数の多い自民党内で総理大臣になる人を選挙で選んで、本会議で首班指名という選挙を行い、正式に選ばれます。

——一番大変な仕事は何ですか？

山口 財務省は国の財政、お財布の中身を考えながら、予算、つまりお金の使い方を決めなければいけません。「もっと（予算を）出してよ」とよく言われますが、お金がないのに非常に困ります。やりくりが一番大変ですね。

——国の借金はいくらくらいありますか？

山口 現在、国と地方を合わせておおよそ1000兆円あります。借金のほとんどは、「国債」というものを国が発行し、国民の皆さんに買っただけ、いずれ（元本と金利を）お返ししないといけないものです。今、借金を減らそうと苦労していきまして、2020年までに出るお金と入るお金

をトントンにしたいと考えています。

——副大臣になって、どういう気持ちでしたか？

山口 実は、前に総務省の副大臣になったことがあります。総務省は地方のことを考えたり、情報通信などを担当している役所ですが、財務省は国全体を見るところなので、大変だなと思いました。

——お札のデザイン（偉人）はどのようにして決めていますか？

山口 いろいろな人の意見を聞いて、財務省（財務大臣）で決めています。外国では政治家や新しい人もいますが、日本では文化人が多いですね。

——なぜ、これから消費税を上げるのですか？

山口 このままいくと国自体が大変なことになるので、税収を上げないといけません。消費税は、安定して同じくらいの額が入ります。ただ、景気を見て、本当に良くなったと思ってから、安倍総理が決めると思います。

が子どもたちと対面

に記者会見をしている場所で、カメラマンや記者から厳しい質問をいただいています。皆さんも記者になった気持ちで質問をしてください」と述べた。子どもたちは皆、積極的に手を挙げて、副大臣にさまざまな質問を投げかけ、会場は大いに盛り上がりを見せた。

以下に、子どもたちからの主な質問と山口副大臣、小淵副大臣のそれぞれの回答を紹介する。



問 一 答 小淵副大臣 編

——国は借金をして、主にどんなことに使われていますか？

小淵 例えば、景気が悪くなったりすると、お金をいっぱい社会に回すことで、お金を使ってもらい、景気を良くなるようにしています。ほかには、橋や道路など大きなものを作る際にも借金でまかなうことがあります。

——お金のない人にどうしたらお金が届きますか？

小淵 仕事をしなくてもなかなかできない人や毎日の生活が大変な人には、日本の制度でお金が渡るようになっていきます。ただ、今の制度では十分でないのも、もっと日本がお金持ちになって、そういった人たちに手厚くお金が行き渡るようにしていかなければいけないと考えています。

——国際会議は年にどれくらいありますか？

小淵 政務官以上が出席している国際会議は、年に20回くらい開催されています。財務大臣は、多

いときは月に2、3回は出張して参加しています。

——お母さんの仕事と財務省の仕事の両方をすることは大変ですか？

小淵 今、3歳と5歳の子供がいますが、大変です（笑）。ただ、どちらの仕事も楽しいと思いつながっています。

——お休みはありますか？ また、何をしていますか？

小淵 ありますよ。休みの日は、この時期（夏）ですと、子どもたちと遊びに行くことが多いですね。プールや、テレビ番組のヒーローもののショーを見に行ったりしています。

——1万円札はどれくらい刷っていますか？

小淵 76.7億枚で、一番発行枚数が多いです。ちなみに、次に多いのが1000円札で37.1億枚。3番目の5000円札は5.6億枚、最後の2000円札は1億枚です。

8月7日開催

「^{ぜいかん}税関ってどんなところ？」レポート

東京税関羽田税関支署を見学

麻薬探知犬のデモ見学で 税関の仕事の重要性を理解

省内見学の後、庁舎からバスに乗って到着したのは、東京税関羽田税関支署。まずはDVD「進め！名犬カスタム君」を視聴し、税関ではどんな仕事を担当しているのかをおおよそ理解。その後、羽田空港国際線ターミナルの5階の展望デッキへ。離着陸する飛行機を眺めながら、空港の施設につ

スーツケースに隠された麻薬をチェックする麻薬探知犬。6つ並べられたスーツケースの中から、見事探し出し、拍手喝采



羽田空港国際線ターミナル5階の展望台で離着陸する飛行機を目の前にしながら、職員から施設の説明を受ける子どもたち

いて、職員から説明が行われた。

次に向かったのはターミナル2階の税関検査場。麻薬探知犬のデモンストレーションが行われた。検査場に並べられた6個のスーツケースを麻薬探知犬が次々とチェック。1回目のチェックでは、何も入れられていなかったため、麻薬探知犬もそのまま素通り。

2回目のチェック前に、1つのスーツケースの中に麻薬の匂いがついたタオルを忍ばせた。再びチェックを始めた麻薬探知犬は、タオルが入ったスーツケースの前で反応し、職員に麻薬の存在を

親子^{de}
大満足！
—参加者の声—

参加の目的は「子供にいろいろな仕事があることを知って欲しかった」（父）から。参加してみた感想は、「記者会見で副大臣に質問ができてよかったです。税関で見学したのは、すべて楽しかったけど、とくに麻薬探知犬の仕事が見られたのがよかったです」（小3男子）（新潟県在住）

記者会見で
副大臣に
質問ができた！

麻薬探知犬に
会えて
よかった

「息子が6年生になったので、普段経験のできない税関の仕事を知って欲しいと思いました」（母）と参加。「麻薬探知犬の検査が一番おもしろかったです。記者会見では、ほかの人の質問も聞くことができて、いろいろなことがわかりました」（小6男子）（東京都在住）

知らせた。その様子を真剣なまなざしで見守っていた子どもたちから大きな拍手が起こった。

見事、麻薬の存在を発見した麻薬探知犬は、しばしご褒美タイム。タオルを口にくわえて職員と引っ張り合ったり、職員が投げたタオルを全速力で取りにいったり、むじゃきにじゃれあう姿が見られた。麻薬探知犬は「職員に遊んでもらいたいから、一生懸命に麻薬を探しているんですよ」という職員の説明に子供たちも納得した様子だった。

入国時の手荷物検査のデモンストレーションも体験した。子どもたちが税関の職員役となり、帰国者の手荷物をチェック。1人目は問題なくチェックを終えたが、2人目は何やら怪しい様子。さらに詳しく調べるために、エックス線検査装置で荷物の中をチェックする。

2人目の帰国者のバッグをチェックしたところ、裏に隠されていた拳銃がモニター画面に表示され、子どもたちも思わず歓声を上げた。

「税関の仕事は税金を徴収するだけでなく、水際で不正を食い止めてくれているんだということが子どもにも見せてあげられてとてもよかったです」（参加者の母親）と、普段はなかなかできない体験ができて、子どもたちも満足の様子だった。

最後に、ターミナル3階にある「情報ひろば」へ。



税関の手荷物検査を体験する（左）。「情報ひろば羽田」は、一般公開されているので、誰でも気軽に立ち寄れる（下）



カスタム君の税関クイズや税関のニュースなどが展示されている。子どもたちはしばし楽しんだ後、見学会は終了。子どもたちにとっては、夏休みのよい思い出になったに違いない。

子どもの社会見学のために、と参加。「カスタム君がおもしろかったです」（小1女子）。「麻薬探知犬のわんちゃんが麻薬を探知してすごいと思いました」（小4女子）（神奈川県在住）

カスタム君が面白かった！



X線の威力にビックリ！



学校の自由研究の一環として参加。「記者会見で質問して、いろいろなことがわかり、知識も広がりました。税関では荷物の検査のところで、X線を使うと、閉じているカバンの中もわかるので、便利だなと思いました」（小6男子）（東京都在住）

8月8日開催

「ぞうへいきよく探検隊！」レポート

造幣局東京支局を見学

勲章にも使われている 七宝焼きを体験

2日目の参加者は庁舎見学の後、造幣局東京支局（豊島区）へ。到着後、ビデオ「くらしとともに」を視聴し、造幣局の仕事について、理解を深めた。

その後は七宝焼きの体験に。造幣局で製作されている勲章には七宝焼きの技術が使われており、その技術を担当する職員が直接、子供たちに指導を行った。

長方形のペンダントに思い思いの色のゆう葉を盛っていく。職員からは「綺麗に仕上げるには、ゆう葉をはみ出さないように盛ってください」「色を変えるときには、色が混ざらないように筆を洗ってください」など、アドバイスが行われた。

七宝焼き体験を終えると、装金工場、貨幣工場、の見学へ。装金工場では勲章の製造が行われており、職人が手仕事で一つひとつ丁寧に製作してい



職員のアドバイスを受けながら、七宝焼きを体験。慎重にゆう葉を盛る子どもたち

る姿を見学。子どもたちも見入った。

貨幣工場ではプルーフ貨幣（収集用として製造される表面に光沢のある貨幣）の製造過程を見学。ここでは、大阪の本局から貨幣の元となる円形の供給を受け、その後の工程を担当している。脱脂、焼きなまし、洗浄、研磨、乾燥、圧印、防錆塗装、ケースへの組み込みなど、完成までの一連の流れ

親子de
大満足！
—参加者の声—

財務省では、どんな仕事をしているのか知りたいと思って参加。「小淵副大臣が麻生大臣は怖くないと言っていたのがおもしろかったです。将来は公務員になりたいという気持ちはちょっとあります。仕事を楽しそうだから」（小3男子）（東京都在住）

ちょっぴり
公務員に
なりたい
気持ちも

夏休みの
自由研究に
役立てたい



将来は新聞記者になるのが夢。「夏休みの自由研究に役立てたいと思って参加しました。七宝焼きが思った通りうまくできてよかったです」（小4女子）。「小淵副大臣が子育てしながら仕事をしているということで、とても親しみがもてました」（母）（茨城県在住）

を見ることができた。

見学当日は地方自治法施行60周年記念の500円硬貨が製造されていた。500円硬貨の斜めギザについても職員から紹介が行われた。大量生産型の貨幣としては、世界初めて斜めギザを可能にし、偽造防止に貢献していると聞いて、日本の技術力の高さに子どもたちも感心していた。

博物館では記念貨幣や勲章などを見学

最後は博物館を見学。ここには、記念貨幣や勲章など、約1000点が展示されている。なかには、金本位制最後の金貨幣で「幻の金貨」ともいわれる20円金貨や造幣局創業当時の試作貨幣など、造幣局でしか見ることでできない貴重なものもある。

子どもたちは、職員の説明を聞きながら、日ごろ目にすることのできないものに見入り、お金の歴史などにも理解を深めた。

見学を終えて、ビデオを視聴した会場に戻ると、七宝焼き体験で作ったペンダントが出来上がっており、ひとり一人に手渡された。すぐに首から下げて喜ぶ子どもたちの姿が見られた。自分でゆう菓を盛って作ったペンダントは、宝物のひとつに

なったであろう。

なお、造幣局の本局（大阪）および東京支局、広島支局では、随時工場見学などを受け付けている。詳細はHPで（<http://www.mint.go.jp/>）。



博物館では、貨幣の歴史などについて職員から説明を受ける（上）。珍しい貨幣に見入る子どもたち（下）

「財務省はお金を管理しているところだと思っていましたが、ほかにもいろいろな仕事をしているということがわかりました。記者会見で質問しましたが、とても緊張しました」（小6女子）。「小淵副大臣と握手できたのがよかったです」（小3男子）（神奈川県在住）

記者会見で質問
して緊張した！



財務省の
仕事
が
わかった

「国のお金を動かしている財務省がどんなところなのか、子どもに見せたかった」（母）と参加。「記者会見で小淵副大臣に会えて、とても優しくそうでした。国をまとめるのにすごくいいと思いました」（小3女子）。「財務省はお金を作っているだけだと思っていたけど、借金を返したりしているのを知って、少しは財務省がわかった気がします」（小6男子）（埼玉県在住）